

## 研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

### 申請番号：

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：（日本語）肝胆膵外科手術後の腹腔内出血における血管内治療手技（EVT）の成績の検討

（英語）Efficacy of Endovascular Treatment for Delayed Massive Hemorrhage After Pancreatic and Biliary Surgery

- ・目的：肝胆膵外科手術における遅発性腹腔内出血は発症率5%とされていますが、発生した場合の死亡率は15-50%程度となることが分かっています。遅発性腹腔内出血の治療としては血管内治療が開腹止血術と比べて効果的であることが分かっており、その手段としてはコイルによる塞栓術と血管ステント留置があります。血管内治療の手技別の短期成績では相違がないことも報告されとされていますが、本邦では腹腔内血管ステントの保険適応が2017年からであり、発症者がもともと少ないため手技ごとの長期的な検討はできていないのが実情です。当院は保険収載されてすぐに腹腔内血管ステントを導入した経緯もあり、当院の症例を解析することで今後の治療に役立つ結果を見つけられる可能性があります。そのため、過去の症例のデータベースを用いて、死亡率、合併症率、全生存といった予後に影響する臨床因子の検索を行う予定です。
- ・研究期間：IRB承認日～2025年3月31日
- ・研究対象：2011年1月1日～2024年12月31日

### 利用し、又は提供する試料・情報の項目

：年齢、性別、疾患、手術術式、手術日、手術時間、出血量、腹腔内出血発症日、Hb値、出血血管、EVT手技、EVT実施日、合併症、院内死亡率、1年死亡率、全生存率

### 利用する者の範囲

：渡邊 幸博

### 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：渡邊 幸博